

## 第 61 回日本電気泳動学会総会を開催して

森山 隆 則\*

私は、研究室の院生・学生諸君の協力を得て去る 2010 年 9 月 18, 19 日に第 61 回日本電気泳動学会総会を開催する栄誉を得ましたので日本電気泳動学会の紹介を含めて概略を報告いたします。本総会は、「60 年の実績を次世代へ」をテーマの下に北海道大学クラーク会館講堂にて開催されました。

## 日本電気泳動学会について

日本電気泳動学会は、電気泳動を中心とする新しい分離分析技術の開発や理論の確立、および基礎研究および臨床医学研究の分野における応用研究を促進することを目的とし、1950 年に設立されました。現在電気泳動は、タンパク質だけでなく核酸や糖質などのさまざまな生体分子の分離分析法として、世界各国で、基礎研究としての生命科学はもとより、応用科学として医学、創薬、農学、水産・畜産学、生物学、食品科学、犯罪捜査など、幅広く利用されています。本学会は、以前は学術集会を春の大会と秋の総会の年 2 回行っておりましたが、平成 14 年より春季大会を定例シンポジウムの形とし、一般演題を含めた学術発表会は年 1 回、秋に開催される形に変更されました。そして、今回、第 61 回を数える歴史のある学術集会となっております。機関誌として和文誌の「生物物理化学」と英文誌の「Journal of Electrophoresis」を持っております。

主な参加者は、日本電気泳動学会会員であり、先述したように研究領域が幅広い分野に跨ってい

るため、異業種の集まりとなります。医療系が最も多く、医師、臨床検査技師、薬剤師、基礎医学研究者などであります。その他、電気泳動法を研究手法とする研究者を合わせ、参加人数は最大で約 200 名と小規模な学会ですが、総会で繰り上げられる議論の内容は実にレベルが高く豊かなことで定評があります。総会では、初代会長 児玉桂三先生から寄贈された基金をもとに、電気泳動法などの物理化学的方法とその応用に関して顕著な研究業績を挙げ、かつ本会に貢献した会員に対し本学会総会において日本電気泳動学会児玉賞を贈呈しています。また近年は、若手研究者の育成にも配慮した奨励賞が発表者に用意されております。

## 第 61 回日本電気泳動学会総会について

本総会の行事内容について箇条書きで以下に示す。

## 1. 行事内容

## I. 特別講演：「ピロリ菌がんタンパク質 CagA による胃がん発症の分子機構」

畠山昌則(東京大学大学院医学系研究科)

司会 今井浩三(東京大学医科学研究所)

## II. 教育講演 1：「アルカリ性フォスファターゼの構造と機能の最近の進歩」

菰田二一(東武医学技術専門学校・日本医科学研究所)

司会 佐藤豊二(北里大学保健衛生専門学院)

## 教育講演 2：「法医学分野における電気泳動法の活用」

\*北海道大学大学院保健科学研究院 病態解析学分野 moriyama@hs.hokudai.ac.jp

吉岡尚文(秋田大学)

司会 櫻林郁之介(自治医科大学名誉教授)

### III. シンポジウム：「60年の実績を次世代へ」

司会 金光房江(倉敷中央病院)・

平野 久(横浜市立大学大学院)

◎「アイソザイム電気泳動を振り返って」

前川真人(浜松医科大学)

◎「キャピラリー電気泳動法の推進に向けて」

志村清仁(福島県立医科大学)

◎「二次元電気泳動法を振り返って」

戸田年総(東京都健康長寿医療センター研究所)

◎「親和電気泳動法の今日」

中村和行(山口大学大学院医学系研究科)

### IV. 若手研究者のためのワークショップ：「みんなで考える異常検体の解析の進め方・実験操作法のポイント」

司会 大石正道(北里大学理学部)・

藤田清貴(千葉科学大学大学院)

### V. ランチョンセミナー

#### VI. 日本電気泳動学会児玉賞受賞講演

1) 豊田 実(札幌医科大学)

「がんにおけるエピゲノム異常の解析とトランスレーショナルリサーチ」

2) 近藤 格(国立がんセンター研究所)

「電気泳動を用いたがん個別化医療のためのバイオマーカー開発」

### VII. 機器展示

#### 2. 一般演題

本総会の一般演題は31演題の発表が行われた。その内容は電気泳動という技術を中心に遺伝子の多様性解析、腫瘍マーカーの探索、食品・食中毒原因菌の解析や分析困難な症例の解析結果、さらには新規電気泳動法の開発とまさに多彩な内容であった。評議員による投票の結果下記の2名の研究者に奨励賞が授与された。

1) 田村彰吾(北海道大学大学院保健科学院・日本学術振興会特別研究員)

「Major royal jelly protein 1(MRJP1) oligomer 構成低分子蛋白質 Apisimin の分子特性解析」

2) 武藤太和(国立がんセンター研究所)

「臨床検体と大型蛍光二次元電気泳動法を用いた大腸がんのプロテオーム解析」

#### 第62回日本電気泳動学会総会について

第62回総会は、聖マリアンナ医科大学の伊東文生教授のもとで平成23年11月12日(土)・13日(日)、横浜市開港記念会館で開催される予定です。